

新建・寺子屋 (モダニズムの研究) 243 報告

近代建築を多角的に検討／モダニズム建築文献再読；
藤森著『日本の近代建築』の分析—第9回

2017. 5.17
話：三沢浩

■ 寺子屋 243 は 5 人の参加で開催されました。

長野宇平治「大倉山精神文化研究所」



横河民輔「三信ビル」



■ 辰野や片山など、コンドル直系の第1世代を過ぎると、さまざまな建築としての可能性が開けてきます。様式の折衷だけでなく、新しいビルディングタイプとしての商業ビルのかたちや工法、一方で日本建築の再発見など、ヨーロッパにとらわれない自分たちの建築を模索します。

■ その極北ともいえる伊東忠太は夏目漱石や南方熊楠と同じ1967年慶応3年生まれ。明治と同時に生を受け、西欧近代と日本のアイデンティティを重ねようとしています。

新建・寺子屋(モダニズムの研究)243

近代建築を多角的に検討／モダニズム建築文献再読；
2017年5月17日(水)話：三沢浩

—藤森著『日本の近代建築』の分析—第9回

1. 前回(第8回)のスライドの補足

- 1) 横浜博(YES'89)とは何であったか
- 2) 関連する三つの塔と横浜市内のRC造
- 3) 辰野と片山という建築家の存在感
- 4) 片山の失意とは何であったか
- 5) 妻木と辰野の葛藤について 再考

2. 今回(第9回)のスライドの概要について

- 1) 辰野と長野宇平治の協力の成果の一部
- 2) 小樽日銀や北銀設計の共働
- 3) その出発は奈良県庁舎の和風(スライドなし)
- 4) 大倉山精神文化研究所のデザイン
- 5) 山口半六のフランス好みの建築について、少々

3. 伊東忠太の特殊性と作品

- 1) 伊東の進化主義とは
- 2) 神社や本願寺の出発点は法隆寺
- 3) 明治神宮宝物殿(大江)や帝冠式への影響
- 4) 武田五一のこと、F・L・ライトとのつながり
4. 横河民輔という変わりもの建築家とその他
 - 1) 手をのばして橋、工務所、電機、鉄工界へ
 - 2) 銀行会館、三信ビル、三越などの成果
 - 3) そのほか東京の新しいビル建設の世界
 - 4) 岡田信一郎、佐野利器+高橋貞太郎(ていたろう)
 - 5) 小菅刑務所の蒲原重雄(かまはら)のデザイン

次回 <寺子屋 244> ■近代建築を多角的に検討■モダニズム建築に関する著作再読
藤森照信著『日本の近代建築』の研究—第10回

話：三沢浩

2017年6月21日(第3水曜日定例) PM 7:15~

場所：新宿区水道町2-8 長島ビル2階(江戸川橋駅神楽坂駅徒歩5分)

会費：400円

問合せ：大崎元 (有)建築工房匠屋 VED03705@nifty.com